

年 7 月 17 日 (金)

- ⑧ 福岡県高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会 平成 21 年 7 月 17 日 (金) / 平成 22 年 1 月 27 日 (水)
- ⑨ ネットワーク会議 平成 21 年 5 月 26 日 (火) / 平成 21 年 7 月 7 日 (火) / 平成 21 年 10 月 20 日 (火)
- ⑩ 高次脳機能障害シンポジウム (福岡・翼の会) 平成 21 年 5 月 16 日 (土)
- ⑪ 第 3 回大川市「未病と健康のつどい」 平成 21 年 6 月 7 日 (日)
- ⑫ 福岡県私学共済年金者連盟講演会 平成 21 年 10 月 29 日 (木)

【広報・啓発活動】

リーフレットの配布

【調査・情報収集活動】

県の社会資源名簿 (高次脳機能障害者受入機関) の作成に協力

【診断評価・リハビリテーションなど】

- ① 診断・評価 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 29 日)

\*相談→診察→諸検査→相談・ニーズ判定及び支援計画会議の対象者 23 名

- ② リハビリ

\*毎週水曜日午後 (高次脳疾患研究所) のリハビリ参加者 18 名

福岡県

【支援拠点機関名】

福岡県身体障害者リハビリテーションセンター

【支援コーディネーター】

太田 保 (社会福祉士)

【当事者／家族からの直接相談のべ件数】

(H21. 4. 1～H22. 2. 28) 合計 136 件

電話 110 件

来院／来所 25 件

メール・書簡 0 件

その他 (訪問・出張・同行等) 1 件

【機関・施設等からの間接相談のべ件数】

(H21. 4. 1～H22. 2. 28) 合計 84 件

電話 83 件

来院／来所 1 件

メール・書簡 0 件

その他 (訪問・出張・同行等) 0 件

【主催した会合】

- ① 高次脳機能障害支援実践セミナー (行政関係者編) 平成 21 年 11 月 13 日 (金) 参加者 92 名
- ② 高次脳機能障害講演会 平成 21 年 12 月 20 日 (日) 参加者 122 名
- ③ 高次脳機能障害支援実践セミナー (医療・福祉等従事者編) 平成 21 年 12 月 22 日 (火) 参加者 158 名
- ④ 高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会 平成 21 年 7 月 17 日 (金) / 平成 22 年 1 月 27 日 (水)
- ⑤ ネットワーク会議 平成 21 年 5 月 26 日 (火) / 平成 21 年 7 月 7 日 (火) / 平成 21 年 10 月 20 日 (火)
- ⑥ 家族支援相談会の開催 当センターとクローバープラザ (春日市) を交互に会場とし、毎月 1 回開催

【協力・出席した会合】

- ① 高次脳機能障害シンポジウム (福岡翼の会) 平成 21 年 5 月 16 日 (土)
- ② 平成 21 年度高次脳機能障害支援事業関係職員研修会 (国立障害者リハビリテーションセンター主催) 平成 21 年 7 月 1 日 (水) ～7 月 3 日 (金)

- ③ 厚労科研費研究班九州ブロック高次脳機能障害行政担当者合同会議への参加  
平成21年7月17日(金)
- ④ 障害者相談支援事業・広域事業連絡会議(福岡県主催) 平成22年1月28日(木)
- ⑤ 平成21年度第2回支援コーディネーター全国会議 平成22年2月25日(木)
- ⑥ 平成21年度第2回支援拠点機関等全国連絡協議会及び公開シンポジウム  
平成22年2月26日(金)
- ⑦ 平成21年度福岡県相談支援従事者スキルアップ研修(福岡県主催) 平成22年3月19日(金)

【広報・啓発活動】

- ① 市区町村・地域包括支援センター・相談支援事業所・回復期リハビリテーション病棟等を訪問し、施設紹介及び高次脳機能障害のリーフレットを配布。
- ② ホームページによる広報啓発

【調査・情報収集活動】

社会資源名簿(高次脳機能障害者受入機関)の作成

\*福岡県内で障害者自立支援法のサービスを提供している全事業所(1573ヶ所)に対し、提供しているサービスの種類全部(2919件)についてアンケート調査を実施。

【診断評価・リハビリテーションなど】

相談を経由し、当センター(身体障害者更生施設)の機能訓練を希望する高次脳機能障害者の受け入れ

\*平成21年4月~12月まで、12名の利用者(障害者手帳なし3名、精神障害者保健福祉手帳2名、身体障害者手帳7名)

【その他の支援活動】

\*地域自立支援協議会の充実、相談支援事業・広域事業のネットワーク化を図ることを目的に、今年度から県が主催し、障害者相談支援事業・広域事業連絡会議がスタートした。

福岡県

【支援拠点機関名】

産業医科大学病院

【支援コーディネーター】

甲斐明子(臨床心理士)

【当事者/家族からの直接相談のべ件数】

合計	310件
電話	76件
来院/来所	231件
メール・書簡	0件
その他(訪問・出張・同行等)	3件

【機関・施設等からの間接相談のべ件数】

合計	120件
電話	77件
来院/来所	21件
メール・書簡	8件
その他(訪問・出張・同行等)	14件

【主催した会合】

- ① 第10回産業医科大学リハビリテーション講習会 平成21年10月22日 ウェルとばた 参加者34名

「高次脳機能障害の診断と障害認定、身体障害者手帳の書き方」産業医科大学リハビリテーション医学講座教授 蜂須賀研二/「精神保健福祉手帳の書き方」産業医科大学リハビリテーション医学講座講師 岡崎哲也/「その他の診断書」産業医科大学リハビリテーション医学講座 岩永勝/「受診や支援の相

談」産業医科大学病院高次脳機能障害支援コーディネーター 甲斐明子/「北九州市高次脳機能障害支援」北九州市障害福祉センター 中本恵子

- ② 第11回産業医科大学リハビリテーション講習会 平成22年2月6日 産業医科大学ラマツィーニ小ホール 参加者91名

特別講演 座長：産業医科大学リハビリテーション医学講座教授 蜂須賀研二

(1)「高次脳機能障害者の地域生活支援～専用作業所を開設して～」諏訪の杜病院院長 武居光雄

(2)「県の健康福祉対策と高次脳機能障害支援普及事業について～千葉リハビリテーションセンターの場合～」千葉リハビリテーションセンター地域連携部部長 太田令子

Q&A 座長：産業医科大学病院高次脳機能障害支援コーディネーター 甲斐明子

(1)「仕事に就くために大事なことは何ですか」産業医科大学リハビリテーション医学講座 岩永勝

(2)「運転再開のすすめ方はどうすればいいですか」産業医科大学リハビリテーション医学講座 加藤徳明

シンポジウム 座長：産業医科大学リハビリテーション医学講座講師 岡崎哲也、北九州市障害福祉センター 技術支援担当係長 可幸子

「高次脳機能障害者の地域支援の実際」NPO 法人石田作業所 野口善之、

南小倉ケアマネジメントセンター 渡辺秀子

- ③ 第1回厚労省科研費研究班九州ブロック会議・高次脳機能障害支援担当者会議（行政関係者） 平成21年7月17日吉塚合同庁舎 参加者46名

「高次脳機能障害支援普及事業の現況」国立リハビリテーションセンター学院長 中島八十一/「福岡県高次脳機能障害実数調査」産業医科大学リハビリテーション医学講座教授 蜂須賀研二/「各県の取り組み状況」福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、鹿児島県、沖縄県、宮崎県より

【協力・出席した会合】

- ◆ 福岡県、北九州市、各種団体が主催する研修会への講師派遣  
福岡県高次脳機能障害支援事業  
高次脳機能障害支援実践セミナー

〈行政関係者編〉 平成21年11月13日クローバープラザ「高次脳機能障害者の生活支援」産業医科大学リハビリテーション医学講座 岡崎哲也/「高次脳機能障害者の事例紹介」産業医科大学病院高次脳機能障害支援コーディネーター 甲斐明子

〈医療・福祉等従事者編〉 平成21年12月22日 クローバープラザ「高次脳機能障害者の事例紹介」産業医科大学病院高次脳機能障害支援コーディネーター 甲斐明子

- ◆ 北九州市高次脳機能障害研修会

① 平成21年度第1回高次脳機能障害研修会 平成21年11月2日 ウ

- エルとばた「高次脳機能障害への理解と対応」産業医科大学リハビリテーション医学講座 岩永勝/「高次脳機能障害支援コーディネーターの役割」産業医科大学病院高次脳機能障害支援コーディネーター 甲斐明子
- ② 北九州市障害者地域支援研究会 平成 21 年 10 月 15 日 アシスト 21「発達・高次脳機能障害における就労ワーキングの取り組み経過」産業医科大学病院高次脳機能障害支援コーディネーター 甲斐明子（パネリストとして）
- ③ 平成 21 年度ジョブコーチ支援事業推進協議会 平成 21 年 10 月 9 日 福岡障害者職業センター北九州支所「高次脳機能障害者の障害特性と配慮事項」産業医科大学病院高次脳機能障害支援コーディネーター 甲斐明子
- ◆ 福岡県が主催する研修会への参加  
福岡県高次脳機能障害支援事業高次脳機能障害講演会 平成 21 年 12 月 20 日 クローバープラザ「高次脳機能障害と家族のケアについて」首都大学東京教授 渡邊修
  - ◆ 福岡県高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会への参加  
第 1 回 平成 21 年 7 月 17 日吉塚合同庁舎 参加者 28 名/第 2 回 平成 22 年 1 月 27 日吉塚合同庁舎 参加者 30 名
  - ◆ 福岡県高次脳機能障害支援ネットワーク会議への参加  
第 1 回 平成 21 年 5 月 26 日 福岡県庁 参加者 7 名/第 2 回 平成 21 年 7 月 7 日 福岡県庁 参加者 7 名/第 3 回 平成 21 年 10 月 20 日 福岡県庁 参加者 8 名/第 4 回 平成 21 年 3 月
  - ◆ 支援コーディネーター全国会議への参加  
第 1 回 平成 21 年 10 月 16 日/第 2 回 平成 22 年 2 月 25 日
  - ◆ 高次脳機能障害支援普及全国連絡会議への参加  
平成 21 年度第 2 回高次脳機能障害支援普及全国連絡会議及び厚生労働科学研究費第 2 回「高次脳機能障害者の地域生活支援の推進に関する研究」全体会議 平成 22 年 2 月 26 日
  - ◆ 北九州市自立支援協議会ネットワーク部会 発達・高次脳機能障害就労ワーキングへの参加  
第 6 回 平成 21 年 4 月 24 日 ウェル戸畑 参加者 9 名/第 7 回 平成 21 年 5 月 19 日 ウェル戸畑 参加者 8 名/第 8 回 平成 21 年 6 月 24 日 ウェル戸畑 参加者 15 名/第 9 回 平成 21 年 8 月 12 日 ウェル戸畑 参加者 12 名/第 10 回 平成 21 年 10 月 13 日 北九州市総合療育センター 参加者 12 名/第 11 回 平成 21 年 11 月 11 日 ウェル戸畑 参加者 12 名
- 【診断評価・リハビリテーションなど】
- ① 社会復帰準備のための高次脳機能障害リハビリテーション学級の開催 平成 21 年度 1 学期 参加者 4 名 平成 21 年 7 月 1・8・15・29/8 月 5・19・26/9 月 2・9・16

- 平成 21 年度 2 学期 参加者 3 名  
平成 22 年 1 月 13・20・27/2 月 3・  
10・17・24/3 月 3・10・17
- ② 神経心理の評価（コーディネータ  
ー実施分、平成 21 年 4 月～12 月）  
RBMT 行動記憶検査 26 件、BADS16  
件
- ③ 院内外傷性脳損傷リハビリテーシ  
ョンカンファレンスの開催  
4 月 15 日/5 月 20 日/6 月 17 日/7 月 22  
日/8 月 19 日/9 月 16 日/10 月 14 日/11  
月 25 日/12 月 16 日/1 月 20 日/2 月 17  
日/3 月 17 日（計 12 回）

## 福岡県

### 【支援拠点機関名】

福岡市立心身障がい福祉センター

### 【支援コーディネーター】

和田 明美（理学療法士）

### 【当事者／家族からの直接相談のべ件数】

合計 188 件

電話 112 件

来院/来所 42 件

メール・書留 3 件

その他（訪問・出張・同行等）31 件

### 【機関・施設等からの間接相談のべ件数】

合計 213 件

電話 176 件

来院/来所 27 件

メール・書留 6 件

その他（訪問・出張・同行等）4 件

### 【主催した会合】

高次脳機能障害支援実践セミナー（医療・  
福祉等従事者編）事例報告 158 名 12 月 22  
日

### 【協力・出席した会合】

- 福岡県が主催する研修会の講師派遣及  
び参加  
高次脳機能障害支援実践セミナー（行  
政関係者編） 11 月 13 日 92 名  
高次脳機能障害講演会 12 月 20 日  
122 名
- その他研修会への講師派遣  
中央区ケアマネ研修「高次脳機能障害  
について考えよう」 5 月 19 日 30 名  
/清水ワークプラザ職場研修「高次脳機  
能障害者の障害特性について」 9 月 1  
日 27 名/ホームヘルパースキルアッ  
プ研修「高次脳機能障害者の対応につ  
いて」 9 月 8 日 23 名/福岡発達・障  
害懇話会「高次脳機能障害と小児の問  
題」 9 月 17 日 58 名/救護施設仁風  
園出前講座「高次脳機能障害について」  
9 月 29 日 15 名/福岡市中央・城南自  
立支援協議会ネットワークのつどい  
「高次脳機能障害について～疾患の理  
解と対応のポイント」 10 月 30 日 55  
名/福岡市社会福祉事業団研究・実践発  
表会「高次脳機能障害支援コーディネ  
ーター業務に関する検討～3 年間の新  
規相談の分析を通して～」 12 月 1 日  
219 名/第 2 ひかり作業所出前講座「高  
次脳機能障害について」 12 月 5 日 8  
名/福岡県相談支援従事者スキルアッ  
プ研修「高次脳機能障害について～疾  
患の理解と対応のポイント」 3 月 19  
日 60 名
- 福岡県高次脳機能障害相談支援体制連  
携調整委員会参加  
第 1 回 7 月 17 日/第 2 回 1 月 27 日
- 福岡県高次脳機能障害支援事業ネット  
ワーク会議参加

第1回5月26日/第2回7月1日/第3回10月20日

5. 厚労科研費研究班九州ブロック会議・高次脳機能障害支援担当者会議（行政関係者）参加 7月17日

6. 全国会議参加

第1回支援コーディネーター全国会議10月16日/第2回支援コーディネーター全国会議 2月25日/支援拠点機関全国連絡協議会及びシンポジウム 2月26日

7. その他

「福岡・翼の会」シンポジウム、総会参加 5月16日/脳外傷友の会第9回全国大会 in ひろしま参加 9月3日・4日

#### 【広報・啓発活動】

福岡県作成パンフレットを随時配布

#### 【調査・情報収集活動】

福岡県として社会資源名簿（高次脳機能障害者受入機関）を作成中

#### 【診断評価・リハビリテーションなど】

医療・自立訓練でのリハビリテーション  
在籍者57名 延訓練件数1712件

週2回高次脳機能障害に特化した包括的・全体論的リハビリテーションを実施

#### 【その他の支援活動】

\*福岡市社会福祉事業団施設での職場実習と職能評価の実施及び体制作り\*就労者グループ 年2回開催 平成21年8月29日8名、平成22年3月14日7名\*「福岡・翼の会」、小規模作業所「翼」の支援\*リハビリテーション実施者の家族会 月1回開催

### 佐賀県

#### 【支援拠点機関名】

佐賀大学医学部附属病院

#### 【相談支援代表者】

浅見豊子（医師）

#### 【相談のべ件数】 合計 117件

電話 18件

来院/来所 99件

その他 0件

#### 【主催した会合】

- ① 第1回高次脳機能障害リハビリテーション講習会 平成21年10月9日：アバンセホール「高次脳機能障害の基本的知識とリハビリについて」 東京慈恵会医科大学附属病院リハビリ学講座教授 安保雅博先生 参加者 280名
- ② 第2回高次脳機能障害リハビリテーション講習会 平成22年1月29日：メートプラザ佐賀 多目的ホール「高次脳機能障害-問題の本質に迫り、社会復帰への道を探る-」 札幌医科大学医学部リハビリテーション医学教授 石合純夫先生 参加者 202名

#### 【協力・出席した会合】

1. 高次脳機能障害研修会等への講師派遣  
佐賀中部地区リハビリ従事者研修会  
平成21年8月18日佐賀社会保険病院 参加者 67名「高次脳機能障害者に対する支援アプローチの実際」佐賀大学医学部附属病院 浅見豊子/特定非営利活動法人ライフサポートハル障がい特性研修2 平成21年9月29日市民活動プラザ会議室 参加者 16名「高次脳機能障害の理解」佐賀大学医学部附属病院 浅見豊子/平成21年度 地域保健福祉従事者研修会 平成22年1月14日佐賀県庁（大会議室） 参加者 101名「高次脳機能障害者とりハビリテーション」佐賀大学医学部附属病院診療

教授 浅見豊子

2. 高次脳機能障害研修会への参加  
高次脳機能障害支援事業関係職員研修会 平成21年7月1日～3日国立身体障害者リハビリテーションセンター  
佐賀大学医学部附属病院 作業療法士  
島中健二

3. 連携会議  
平成21年度厚労科学研究費研究班ブ  
ロック会議 平成21年7月17日、福  
岡県吉塚合同庁舎 浅見豊子（佐賀大  
学）、田崎直美（佐賀県庁）参加  
平成20年度佐賀県高次脳機能障害者  
支援推進委員会①平成21年度第1回佐  
賀県高次脳機能障害者支援推進委員会  
平成21年5月27日、佐賀県庁 参加  
者20名②平成21年度第2回佐賀県高  
次脳機能障害者支援推進委員会 平成  
22年3月24日、佐賀県庁 参加者16  
名

【広報・啓発活動】

\*高次脳機能障害支援に関するホームペー  
ジの更新\*リーフレットの作成

【その他の支援活動】

\*第1回高次脳機能障害『ぶらむ』佐賀研  
修会支援 平成21年9月6日：アバンセ  
「高次脳機能障害者がかかえるトラブルへ  
の対応と予防」春山法律事務所 春山九州  
男弁護士

\*本人家族、関係職種との症例検討会（平  
成21年4月8日、4月13日、6月8日、6  
月24日、6月24日、8月27日、9月2日、  
12月14日：佐賀大学医学部附属病院）

\*各症例毎に本人、家族、リハスタッフ、  
MSWでの評価後の話し合い（佐賀大学医学  
部附属病院）

\*担当弁護士と損害賠償の件で話し合い  
（平成22年2月1日）

長崎県

【支援拠点機関名】

長崎県長崎こども・女性・障害者支援セ  
ンター内高次脳機能障害支援センター

【支援コーディネーター】

社会福祉職

【当事者／家族からの直接相談のべ件数】

（H21.4.1～H22.2.28）合計163件

電話 83件

来院／来所 57件

メール・書簡 2件

その他（訪問・出張・同行等）21件

【機関・施設等からの間接相談のべ件数】

（H21.4.1～H22.2.28）

電話 統計区分無し

来院／来所 統計区分無し

メール・書簡 統計区分無し

その他（訪問・出張・同行等） 統計  
区分無し

【主催した会合】

長崎県高次脳機能障害支援シンポジウム  
142名/長崎県高次脳機能障害支援連絡協議  
会 24名/長崎県地域リハビリテーション  
協議会 28名/保健所高次脳機能障害支援  
担当者研修会 18名/県北保健所職員研修  
会 15名

【協力・出席した会】

壱岐保健所リハビリテーション専門部会  
14名/県北広域支援センター 高次脳研修  
111名/五島市高次脳機能障害支援研修会  
43名/県南地域高次脳障害支援研修会 125  
名/市長担当職員研修会 県内4会議場  
99名/長崎県言語聴覚士会研修会 145名/  
佐世保市相談事業者研修会 8名/東彼杵在  
宅ケアセミナー 30名/時津町地域包括支  
援センター高次脳研修 70名/大浦地域包  
括支援センター高次脳研修 20名/地域職  
業リハビリテーション推進フォーラム  
150名/損保協会助成事業リハビリテーシ  
ョン講習会 250名

〈当センター職員受講の研修〉

広島県障害者リハビリテーションセンター見学 於 左記センター/第1回拠点  
機関連絡協議会職員研修 於 神奈川県  
所沢/九州ブロック研究班及び高次脳支  
援担当者との合同研修 於 福岡県身体  
障害者リハビリテーション研究集会 2009  
於 千葉市/平成 21 年度第 2 回支援コー  
ディネーター全国会議 於 東京都三田

【広報・啓発活動】

パンフレット有/機関誌無/ウェブサイト有  
/冊子有/DVD 無

【調査・情報収集活動】

地方支援機関マップ有（通称高次脳機能障  
害支援のための資源マップ「医療機関一  
覧」）

【診断評価・リハビリテーションなど】

年間 2 クール 火曜日 木曜日 1 クール  
各々 3 時間×1 2 週（2 4 回）

（浜松方式高次脳機能スケール・Wisconsin  
Cord Sorting Test・QOL 質問紙（WHO）・  
BADS・一般職業適性検査・社会性（調査）  
尺度・言語：SLTA 補助テスト・体力テスト  
←具体的には 6 分間歩行による主観的客  
観的疲労の比較テスト）

【その他の支援活動】

\*高次脳機能障害を専門とする医学博  
士を招いて毎月行う高次脳機能障害支  
援会議\*家族会支援（毎月役員会や家  
族会開催のための場所の提供）\*ピア  
サポート事業（家族、あるいは当事者  
同士の相談会のコーディネート）

## 熊本県

【支援拠点機関名】

熊本県高次脳機能障害支援センター

【支援コーディネーター】

谷所敦史（精神保健福祉士）

【当事者/家族からの直接相談のべ件数】

（H21. 4～H22. 2） 合計 143 件

電話 143 件

来院/来所 件

メール・書留 件

その他（訪問・出張・同行等） 件

【機関・施設等からの間接相談のべ件数】

（H21. 4～H22. 2） 合計 88 件

電話 88 件

来院/来所 0 件

メール・書留 5 件

その他（訪問・出張・同行等） 0 件

【主催した会合】

熊本県高次脳機能障害MSW連絡会/平成  
21 年度高次脳機能障害研修会/熊本リハビ  
リテーション講習会

【協力・出席した会合】

熊本県高次脳機能障害検討委員会/しよ  
うがい学生支援サポーター養成講座/ぷら  
む熊本家族会通常総会/くまもと地域相談支  
援懇話会/熊本MSW研修会

【広報・啓発活動】

前年度も作成したものを研修会ごとに配布

## 鹿児島県

【支援拠点機関名】

鹿児島県高次脳機能障害者支援センター

【支援コーディネーター】

加藤アヤ子（保健師）

【相談事業のべ件数】

（H21. 4～H22. 2） 合計 99 件

電話 76 件

来院/来所 21 件

メール・書簡 2 件

その他（訪問・出張・同行等） 0 件

【主催した会合】

1. 研修会

支援者向け・一般県民向け研修・・・2  
会場 平成 21 年 8 月 3 日（月） ハー  
トピア鹿児島 対象者：行政機関及び  
医療機関 81 人/行政機関及び医療機関  
100 人 講師：産業医科大学医学部教



- 授 蜂須賀研二先生
2. 講演会  
 ＊医師会向け(医療関係者)講演会 平成21年10月1日(木) 奄美市医師会館 対象者：医療関係者 55人 講師：精神保健福祉センター所長 富永秀文  
 ＊支援者向け講演会 平成21年10月2日(金) 奄美市中央公民館 対象者：行政機関等 120人 講師：精神保健福祉センター所長 富永秀文
3. 「高次脳機能障害者支援にかかる連絡会」平成22年3月9日(火) かごしま県民交流センター 対象者：医療機関/行政機関等 89人
4. 高次脳機能障害者支援推進委員会活動(鹿児島大学)  
 ＊第11回鹿児島「高次脳機能障害」研究会 平成21年11月29日/鶴陵会館大ホール 高次脳機能障害者に対する社会・生活支援のためのリハビリテーション  
 ＊第16回「高次脳機能障害者支援推進委員会」平成21年11月29日/鶴陵会館中ホール  
 ＊第6回症例検討会 平成21年11月29日/鶴陵会館中ホール

【広報・啓発活動】

『高次脳機能障害者支援の手引き』作成及び関係機関配付 平成22年3月

【その他の支援活動】

医療ソーシャルワーカー協会研修 平成22年1月30日「ぷらむ」鹿児島で報告

宮崎県

【支援拠点機関名】

宮崎県身体障害者相談センター

【支援コーディネーター】

満尾昭彦(事務職) 落合恭芳(事務職)

【当事者／家族からの直接相談のべ件数】

(H21.4～H22.3) 合計 99件

電話 63件

来所 15件

メール・書簡 12件

その他(訪問・出張・同行等)9件

【機関・施設等からの間接相談のべ件数】

(H21.4～H22.3) 合計 139件

電話 65件

来所 7件

メール・書簡 60件

その他(訪問・出張・同行等)7件

【主催した会合】

1. 研修会・講演

＊平成21年6月8日 高次脳機能障がい講演会(医師向け研修会) 144名

＊平成21年8月9日 セラピストのための高次脳機能障がい研修会 セラピスト 182名

＊平成21年8月25日 高次脳機能障がい行政等担当者研修会 行政職員、社会福祉協議会職員 42名

2. 連絡調整会議・協議会

＊平成21年5月22日 高次脳機能障がい者支援推進連絡調整会議 22名

＊平成22年3月29日 高次脳機能障がい者支援推進連絡調整会議 14名

3. ケース会議

ケース合同カンファレンス(2回、11名)

【協力・出席した会合】

＊平成21年11月29日 鹿児島「高次脳機能障害」研修会

＊平成22年1月4日 宮崎リハビリテーション講習会(損保協会助成)

\*平成21年11月14日 高次脳機能障がいについて語ろう会(NPOとの協働) 当事者・家族、支援者のグループディスカッション

\*平成22年3月4日 高次脳機能障がいに関するNPO勉強会(NPOとの協働)

\*平成22年3月13日 高次脳機能障がいについて語ろう会(NPOとの協働)

#### 4. 講師派遣

(5団体の主催行事にセンター職員を派遣。計368名)

##### 【広報・啓発活動】

\*パンフレットの発行・配布

\*高次脳機能障がい受入機関一覧の発行

\* (高次脳機能障がい者が利用できる) 諸制度の手引きの発行・配布

\*情報紙の発行(7回)

##### 【調査・情報収集活動】

\*民生委員に対するアンケート(2民生委員協議会、113名)

\*ケアマネージャー、福祉専門職に対するアンケート(1市、95名)

##### 【診断評価・リハビリテーションなど】

\*福祉施設を訪問し、高次脳機能障がいのリハ方法を指導(11施設、延べ14回)

##### 【その他の支援活動】

\*医療圏毎の拠点病院の選定及び連携並びに部会の設置

\*診断基準・診断技術の普及

\*入院・入所施設の充実

\*自立支援医療を主管している市町村との連携強化

\*特に家族支援の強化

\*就労支援に向けた連携体制の強化

\*地域支援ネットワークの整備・充実

#### 大分県

##### 【支援拠点機関名】

医療法人 光心会 諏訪の杜病院

##### 【支援コーディネーター】

浅倉恵子(作業療法士) \*現在育児休暇中のため、代行として北村友紀(言語聴覚士)

##### 【当事者/家族からの直接相談件数】

(21年度1月末付) 合計 60件

(新規実件数)

電話 34件

来院 26件

メール・書簡 0件

その他(訪問・出張・同行等) 0件

##### 【機関・施設等からの間接相談件数】

(21年度1月末付) 合計 44件

(新規実件数)

電話 37件

来院 2件

メール・書簡 5件

その他(訪問・出張・同行等) 0件

##### 【主催した会合】

#### 1. 研修会

高次脳機能障がい職種別養成研修会  
(2回開催) 平成21年10月23日/11月6日 対象者:保健師、市町村職員、ソーシャルワーカー、ケアマネージャーなど 参加人数:1回目22名/2回目47名

#### 2. 講習会

大分県高次脳機能障がい専門職員養成研修会 平成22年3月7日(日) 講演「高次脳機能障がい～今までの経過と今後の方向性～」 講師:産業医科

大学医学部リハビリテーション医学  
岡崎哲也先生/「高次脳機能障がい  
の理解と支援」 諏訪の杜病院 武居光雄/  
「大分県高次脳機能障がい支援普及事  
業報告と支援拠点機関」 別府リハビ  
リテーションセンター 本田昇司 対  
象者：障害福祉サービス事業所、保健  
所・県民保健福祉センター、県・市町  
村関係職員等 参加人数：78名

3. 連絡調整会議

第5回大分県高次脳機能障がい者相談  
支援体制連携調整委員会 平成22年3  
月9日(水) 参加者：連携調整委員  
会委員

4. 会議

大分県高次脳機能障がい支援拠点会議  
(全5回)

第8回 平成21年5月19日 諏訪の  
杜病院/第9回 平成21年7月27日  
別府リハビリテーションセンター/第  
10回 平成21年8月31日 諏訪の杜  
病院/第11回 平成21年11月30日  
別府リハビリテーションセンター/第  
12回 平成22年1月21日 諏訪の杜  
病院/第13回 平成22年2月22日 別  
府リハビリテーションセンター 参加  
者：各々相談支援コーディネーターを  
含む5~6名

【協力・出席した会合】

1. 講習会

\*平成21年度大分県高次脳機能障害  
連絡協議会総会及び特別講演の開催

\*第9回大分県高次脳機能障害リハビ  
リテーション講習会の開催

\*第10回大分県高次脳機能障害リハ

ビリテーション講習会の開催

2. 研修会

\*平成21年度地域職業リハビリテー  
ション推進フォーラム「てんかんを含  
む精神障害者保健福祉手帳を持つ方々  
の雇用支援と社会参加」

\*第11回産業医科大学リハビリテー  
ション講習会

3. 会議

\*厚生労働省高次脳機能障害支援ネッ  
トワーク構築に関する研究班 発表

\*厚生労働省高次脳機能障害支援ネッ  
トワーク構築に関する研究班(九州ブ  
ロック) 活動報告

\*全国高次脳機能障害相談支援コーデ  
ィネーター情報交換会

\*平成21年度第1回支援コーディネー  
ター全国会議

\*日本リハビリテーション医学会  
Working Group 会議

\*平成21年度短期入院協力病院 担  
当者意見交換会

\*平成21年度第2回支援コーディネー  
ター全国会議

\*平成21年度第2回高次脳機能障害支  
援普及全国連絡協議会

4. その他

\*日本リハビリテーション医学会 シ  
ンポジウム発表

\*大分県高次脳機能障害連絡協議会会  
報 「ぶんご梅」 2巻発行

【広報・啓発活動】

\*県下の保健所・県民保健福祉センターへ  
の啓発活動(チェックリストの普及)

\*パンフレット改訂版の発行

【診断評価・リハビリテーションなど】

評価・診断

リハビリテーション：認知機能訓練、学習療法、IADL訓練、職能訓練、言語機能訓練などを実施し、生活支援・就労支援・就学支援を行っている。その他、精神保健福祉手帳や障害年金、精神通院（自立支援）などの情報提供、診断書作成を行うと共に、必要な社会資源の情報提供を行っている。

【その他の支援活動】

\* 2つの支援拠点機関合同で高次脳機能障害チェックリスト（質問紙スクリーニング用）を作成

\* 講師派遣

- ・九州保健福祉大学講義
- ・中津医師会 講演会
- ・協和発酵キリン株式会社 社内研修
- ・県立看護科学大学大学院 講義（7/15、8/21）
- ・リハビリテーション専門医 高次脳機能障害講演会（7/11）
- ・リハビリテーション調整者 特別講演（9/2）
- ・九州保健福祉大学 特別講演（9/2、10/24）
- ・日本リハビリテーション医学会九州地方会口演（9/13）
- ・TERUMO株式会社 社内研修会 特別講演（10/16）
- ・豊後高田医師会 特別講演（11/9）
- ・大分県障害者職業センター（11/10）
- ・速見郡杵築市医師会 特別講演（11/17）
- ・大分リハビリテーション専門学校 理学療法士科2年生 特別講演（12/8）
- ・特別支援学校教頭会 特別講演（12/20）
- ・九州保健福祉大学 作業療法学科2年生

特別講演（12/26）

- ・大分県医療ソーシャルワーカー協会研修会 講演（1/16）
- ・介護技術者講習会 特別講演（1/22）
- ・第11回産業医科大学リハビリテーション講習会 講演（2/6）
- ・第12回大分県理学療法士学会 教育講演（3/14）
- ・湯布院厚生年金病院 特別講演（3/22）

【支援拠点機関名】

社会福祉法人 農協共済 別府リハビリテーションセンター（大分県）

【支援コーディネーター】

臨床心理士

【当事者／家族からの直接相談件数】

合計	526件
電話	261件
来院／来所	226件
メール・書簡	36件
その他（訪問・出張・同行等）	3件

【機関・施設等からの間接相談件数】

合計	199件
電話	143件
来院／来所	22件
メール・書簡	18件
その他（訪問・出張・同行等）	16件

【主催した会合】

- \* 大分県高次脳機能障がい支援拠点会議 5回開催（2月22日に6回目予定）
- \* 高次脳機能障がい職種別養成研修会 2回開催（10月23日：22人参加・11月6日：47人参加）
- \* 大分県高次脳機能障がい専門職員養成研修会（3月7日：78人参加）

＊第5回 大分県高次脳機能障がい相談体制連携委員会（3月9日）

【協力・出席した会合】

① 研修会

平成21年度 杵築市介護支援専門員協議会  
総会 研修会

津久見市自立支援協議会 児童部会勉強会  
平成21年度 社会福祉施設介護職員中堅研  
修会

第11回 西日本国際福祉機器展

別府市学校保健会「学校保健講演会」

大分県ソーシャルワーカー協会主催 交通  
事故被害者生活支援教育研修

平成21年度大分県介護技術講師継続研修

大分県立石垣原養護学校研修会

② ケース会議 14ケース（のべ21回）参  
加

高次脳機能障がいの若者と家族の集い

（講演会と交流会：11月7日 当事者11名、  
家族16人参加）

事例検討会（勉強会）38回実施

③ 啓発

平成21年度大分県特別支援学校校長会第2  
回研修会

大分県特別支援学校教頭会

平成21年 権利擁護・成年後見人推進連絡  
会議

【広報・啓発活動】

病院10ヶ所、保健所3ヶ所、施設・相談支  
援センター5ヶ所、作業所8ヶ所、学校5  
ヶ所、行政 3ヶ所、家族会2ヶ所、  
計35ヶ所に大分県が作成したパンフレット  
を持って啓発訪問を行う大 分合同  
新聞に3回掲載

【診断評価・リハビリテーションなど】

高次脳機能障がい者の家族15名の心理検査  
（POMS）を実施し報告

別杵速見地域の地域支援機関マップ（作業  
所編）の作成

【診断評価・リハビリテーションなど】

認知リハ、言語リハ（入院・通院）、障害者  
支援施設（入所・通所）、就労支援（就労移  
行支援・就労継続支援B型）

【その他の支援活動】

大分県2拠点で「高次脳機能障がい者スク  
リーニング用チェックリスト」を作成

高次脳機能障がいの方受け入れの協力とし  
て2機関から相談があり支援した

沖縄県

【支援拠点機関名】

医療法人へいあん 平安病院

【支援コーディネーター】

伊井 統章（精神保健福祉士）

新垣 香織（精神保健福祉士）

赤嶺 洋司（臨床心理士）

波平 智雄（医師）

【当事者／家族からの直接相談件数】

※今回当院では、当事者／家族からと、機  
関・施設からの相談をまとめて集計

合計 785 件

電話 473 件

来院／来所 263 件

メール・書簡 0 件

その他（訪問・出張・同行等）49 件

【主催した会合】

① 講演会

平成21年12月6日 「高次脳機能障  
害者と社会参加」

対象者：沖縄県民、医療・福祉関係者

参加人数：171名

② 拠点病院連絡調整会議：

平成21年4月28日(7名)/6月23日(8名)/8月25日(8名)/10月27日(10名)/12月22日(5名)/平成22年2月23日(7名)

参加者：平安病院、沖縄リハビリテーションセンター病院、沖縄県、ゆい沖縄

【協力・出席した会合】

① 講演会

平成22年1月17日 沖縄リハビリテーションセンター病院主催  
「金メダルまでの道のり」～夢を支えた家族と仲間～

② 勉強会

平成21年7月13日 相談支援専門員現任者講習に講師として参加

③ 拠点病院連絡調整会議

H21年5月、7月、9月、11月、H22年1月、3月  
(沖縄リハビリテーションセンター病院にて)

【広報・啓発活動】

沖縄県の広報番組「うまんちゅひろば」にテレビ出演。放送日：H22年2月13日、14日(放送回数：計3回) 高次脳機能障害の説明や拠点病院での取り組みについて説明。

【調査・情報収集活動】

高次脳実態調査(H21年6月1日～8月31日)

4) 産業医科大学におけるその他の高次脳機能障害支援活動

(1) 青年における簡易な神経心理学的検査の標準値

高次脳機能障害の診断・評価においてはWAISやWMSを用いた神経心理検査が標準的に実施される。一方、外来診察、スクリーニング、特定領域の評価目的で、より簡易な神経心理検査(慶應版ウィスコンシン・カード・ソーティング検査、三宅式記銘力検査、Trail making Test, Modified Stroop Testなど)がしばしば用いられている。これらの検査には標準値として幾つかの報告が散見されるが、多くは中高年者を対象としている。外傷性脳損傷による高次脳機能障害は青年が多いので、中高年者の標準値を用いて判定するにはやや問題がある。そのため、治療計画策定、障害認定、補償などに際し、青年を対象とする標準値が必要なので、高次脳機能障害患者と年齢が近似した健常青年を対象としてこれらの評価を行い、標準値を設定することにした。

今年度は27名(男性19名、女性8名、平均年齢 $24.8 \pm 2.2$ 歳)の健常者を対象とし検査を実施した。

三宅式記銘力検査(3回目の成績)

有関係対語  $10.0 \pm 0.0$ 点(24名は2回目で10点)

無関係対語  $8.3 \pm 1.7$ 点

Trail making test(使用図版はReitanら1955に準ずる)

Part A  $22.2 \pm 5.4$ 秒

Part B  $44.0 \pm 12.7$ 秒

ウィスコンシン・カード・ソーティング・テスト慶應版

達成カテゴリー  $5.1 \pm 1.0$

ネルソン型保続  $1.8 \pm 1.9$

セット維持困難  $0.5 \pm 0.8$

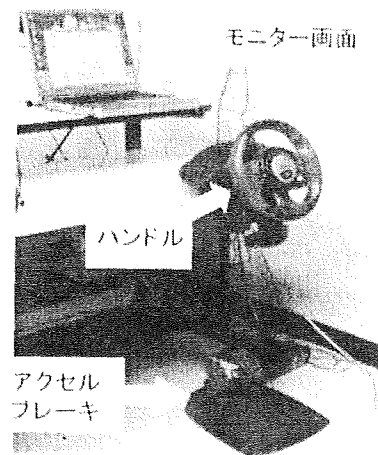
来年度以降も対象年齢を広げ、対象者数を増し、標準値を完成させる予定である。

## 2) 高次脳機能障害者の自動車運転適性評価

高次脳機能障害者が社会復帰するにあたり、自動車運転の再開の可否を相談されることが多いが、我々医療スタッフは回答に窮することもまれではない。そこで高次脳機能障害者の自動車運転適性評価の一部として、3つの検査から成る簡易自動車運転シミュレーターを用いて臨床試用を試みている。健常者 202 名の成績より以下の標準値と標準域を定めた。(1)認知・反応時間検査：反応の早さを表す「平均値  $0.81 \pm 0.09$  秒」、反応の突発的な延長を表す「標準偏差  $0.10 \pm 0.05$  秒」(2)タイミング検査：先急ぎの傾向を表す「予測時間の平均値  $0.24 \pm 0.49$  秒」(3)走行検査：大きいほど車間距離が短く衝突の危険性を表す「不安全割合  $36.7 \pm 29.9\%$ 」。

外傷性脳損傷(TBI)者 17 名の成績と比較すると TBI 者は 3 名が標準域から外れる方が多く(健常者 202 名中 4 名)、TBI 者には運転事故を起こしやすい者が多いことが示された(日本リハ医学会 2009、運転と認知機能研究会)。

本検査はノートパソコンとゲーム用ハンドル・ペダルを使用し簡便で安全に院内で使用でき、外傷性脳損傷等の高次脳機能障害者の運転適性評価の一部として有用と考える。



<簡易自動車運転シミュレーター>

## 3) 高次脳機能障害者の事象関連電位

外傷性脳損傷による高次脳機能障害の注意障害の特徴を明らかにする目的で、事象関連電位を測定した。高次脳機能障害者(37名)と健常者(20名)を比較すると、高次脳機能障害者は、注意の選択性、容量の低下を認めると共に、注意の持続低下が示唆された。

また、外傷性脳損傷後の注意障害を塩酸ミルナシプランが改善するか否かを明らかにする目的で、受傷後 6 カ月以上を経過した外傷性脳損傷者 14 名に対して、塩酸ミルナシプランを 2 カ月間投与する 2 重盲検比較試験を実施した。まず対象者を塩酸ミルナシプラン投与群と偽薬を投与する対照群に無作為に 2 分割して、実験前後で神経心理検査と事象関連電位の測定を行った。投与群は反応時間が有意に改善した(投与群：投与前  $325.4 \pm 76.5$  msec → 投与後  $307.6 \pm 60.1$  msec、 $p < 0.05$ 、対照群：前  $318.1 \pm 61.1$  msec → 後  $321.5 \pm 98.7$  msec、 $p > 0.05$ )。一方、P3 振幅の低下を認め(投与群：投与前  $15.0 \pm 5.6 \mu V$  → 投与後  $11.1 \pm 4.0 \mu V$ 、

p<0.05, 対照群:前 12.8±6.7μV→後 14.6±1.6μV, p>0.05)、注意の容量の減少をきたしているものと考えられた。しかし、注意の容量は減少したが神経心理学的検査上、注意機能の悪化は認めなかった。

高次脳機能障害の原因が前交通動脈破裂によるくも膜下出血の患者を対象とすると、外傷性脳損傷者と比較してN1、N2の振幅が大きく、P3の振幅が小さいことが特徴であることがわかり、H22年度日本リハビリテーション医学会にて発表予定である。H22年度の計画としては、多チャンネルでの事象関連電位を測定し更に詳細に注意の持続の研究をすすめていく予定である。

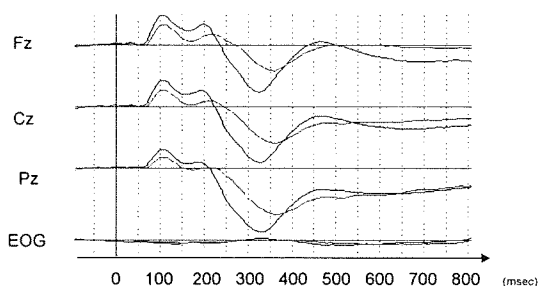


Figure1:  
Grand Averaged ERP of the target tone at Fz, Cz and Pz, EOG control (black line) and brain injury patients (blue line)

#### (4) 社会復帰準備のためのリハビリテーション学級

高次脳機能障害者は、医療リハビリテーションが終了しても、多くは施設利用や就労などの社会参加が困難である。その原因として、対人技能の拙劣さや集団行動の不得意さがある。そこで、「社会復帰準備のためのリハビリテーション学級」を2006年より開始し、学級という集団の中でソーシャルスキルを学び、他の高次脳機能障害者と交流することで対人技能の評価・再習得、

適応的な問題解決の習得、自身の問題の自覚、意欲の向上を試みている。リハ学級の期間・頻度は、4ヶ月を1学期とし、1学期中に合計10回、水曜日の午後13:30~16:30とした。これまで8学期開講し、述べ41人の高次脳機能障害患者が受講し、課程を修了した者には修了証を授与した。これまでの成果として、リハ学級に参加すると患者の障害に対する自己評価が低下し、家族の評価は高くなることが示されている。患者は自分の姿をより現実的に即して認識できるようになり、家族は改善した様子を認識できるようになった。

本年度は1学期7月1日より9月16日まで、2学期は1月13日より3月17日まで、水曜日の午後13:30~16:30、それぞれ10回開講した。参加した高次脳機能障害者は合計7名(うち女性1名)、原因疾患は脳外傷3名、脳血管疾患3名、脳腫瘍1名であった。いずれも医療リハビリテーションが終了したにも関わらず社会復帰や職場復帰を果たしていないか、その途中の者であった。期間・頻度は4ヶ月1クール、計10回、毎週水曜日。カリキュラムは、医師による小講義(高次脳機能障害とは、記憶障害の対処法、注意障害の対処法、遂行機能障害の対処法、社会的行動障害の対処法、障害受容について、高次脳機能障害は治るか、職場復帰の要件)、コミュニケーション技術の向上を図る社会技能訓練(連想リレー、テーマに沿ってスピーチ、お互いにインタビュー、時間の計画、障害のことを話そう、困っていることを話し合おう)、レクリエーション(卓球、パソコン、歌、トランプ)などであり、集団の中で訓練を実施した。こ



れらにより、他者を意識した態度がとれるようになったり、場に即した言動ができるようになったなどの効果が見られた。



<リハ学級：ケーキ作り風景>

#### D. 健康危険情報

なし

#### E. 研究発表

##### 1. 論文発表

一覧表に記載

#### D. 考察

高次脳機能障害のリハに関して、各県を代表する立場にある医療関係者がブロック委員に就任し、行政担当者と合同で会議を開催して研修や支援事業の実施状況を報告して、最新の情報を交換し、良い意味でお互いに競争しながら事業を進めることができた。平成21年までに九州地区8県全てに高次脳機能障害支援拠点機関を設置し、支援コーディネーターを配置することができたのは、ブロック委員と行政担当者が合同で会議を開催する方式の成果と考える。各地で活発に研修会等が開催されるようにな

り、今年度の研究班の目的はほぼ達成できたと考える。

一方、詳細に地域の状況を検討すると、福祉施設の受け入れや、受け入れ後の対応はさまざまであり、全てが満足できる支援内容ではなかった。高次脳機能障害の発症数は、脳血管障害や認知症よりも明らかに少なく、全ての医療福祉機関が質的に十分な支援や対応ができるようになるとは考えられない。地域的に中核となり高次脳機能障害を受け入れる医療または福祉施設を育成する方が現実的である。この観点からも、地域に拠点機関を指定して地域生活支援事業を推進する支援普及事業は適切な方法と考えられる。

高次脳機能障害のリハビリテーションに関しては解決されていない問題も多い。頻繁に使用される神経心理検査で、対象者の年齢に対応する標準域が定められていないものがある。医療リハビリテーションが終了しても社会復帰できない状況があり、社会復帰準備のための集団訓練が必要である。しかし、医療としては診療報酬請求ができず、福祉の立場からは実施困難な現状がある。自動車運転の再開も社会復帰や職場復帰には不可欠であるが、適切な判断基準が定められていない。高次脳機能障害者を受け入れる作業所はあるが、十分な対応ができていたとは言えない。

今後は、これらの問題に対して地域生活支援の体制整備と並行して各拠点機関を中心にして取り組み解決する必要がある。

#### E. 結論

九州各県から12名の九州ブロック委員を

選任し、行政担当者と合同でブロック会議を開催した。九州内で13箇所の支援拠点機関が設置されており、支援コーディネーターは（一部、医師や担当者を含む）19名が配置され、支援活動や研修会も活発に開催されるようになった。

末尾に掲載する。

F. 研究発表

1. 発表論文

末尾に掲載する。

2. 学会発表

F. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

著 書

著者	標題	出版年月	図書名・編者・監修	出版者	ページ
岡崎 哲也	高次脳機能障害の評価と指導	200906	実地医家に役立つリハビリテーションの知識と技術 編集: 蜂須賀 研二、佐伯 覚	医歯薬出版株式会社	78-88
高橋 真紀 佐伯 覚 蜂須賀 研二	FAI	200909	リハビリテーションにおける評価法ハンドブック ー障害や健康の測り方ー 監修: 赤居正美	医歯薬出版株式会社	249-252
佐伯 覚 増田 公香	CHART CIQ	200909	リハビリテーションにおける評価法ハンドブック ー障害や健康の測り方ー	医歯薬出版株式会社	253-260

雑誌

著者	標題	出版年月	発表学会誌・雑誌	Vol,No	ページ
岡崎 哲也	障害者自立支援法・障害程度区分認定医師意見書 ①身体障害ー外傷性脳損傷	200912	J Clin Rehabil	17;12	58-63

著者	標題	発表年月	学会・大会名	開催地
岡崎 哲也 岩永 勝 蜂須賀 研二	健常者において視野制限が視覚性注意課題へ与える影響	200907	第14回 日本認知神経科学会	東京
蜂須賀 研二	福岡県における高次脳機能障害発症の実数調査	200907	厚生労働科学研究費補助金「高次脳機能障害者の地域生活	福岡
吉川 真理 岩井 泰俊 田中 伸宏 小田 太士 岩永 勝 和田 太 蜂須賀 研二	外傷性脳損傷後に機能低下を認め、水頭症との鑑別に苦慮した一例	200909	第26回 日本リハビリテーション医学会九州地方会	熊本
岡崎 哲也	健常者における視野制限と視覚性抹消課題成績	200909	第33回 日本神経心理学会	東京
岡崎 哲也 岩永 勝 佐伯 覚 蜂須賀 研二	健常者の模擬的同名半盲下での視覚性抹消課題成績	200909	第27回 産業医科大学学会総会	北九州
岡崎 哲也 蜂須賀 研二	健常者への視野制限が視覚性抹消課題へ与える影響について	200910	第33回 日本高次脳機能障害学会	札幌
武本 暁生 樺島 美由紀 白山 義洋 甲斐 明子 岡崎 哲也 蜂須賀 研二	脳外傷後重度高次脳機能障害を呈したが原職復帰を果たした一症例 —医療リハ積極的関与の効果と今後の課題—	200910	第33回 日本高次脳機能障害学会	札幌
甲斐 明子 岩永 勝 岡崎 哲也 蜂須賀 研二 橋本 学	当院における高次脳機能障害者の神経心理検査成績とその特徴 第2報	200910	第33回 日本高次脳機能障害学会	札幌
下野 昌幸 石井 雅宏 千手 絢子 岩永 勝 蜂須賀 研二	聴性Oddball課題におけるNoGo P3の検討	200911	第39回 日本臨床神経生理学会	北九州
岩永 勝 下野 昌幸 岡崎 哲也 蜂須賀 研二	外傷性脳損傷者における事象関連電位と神経心理学的検査の関連	200911	第39回 日本臨床神経生理学会	北九州

学会発表

著者	標題	発表年月	学会・大会名	開催地
蜂須賀 研二 小田 太士 岡崎 哲也 岩永 勝 加藤 徳明 永吉 美佐子 松尾 圭介 中島 八十一	福岡県における高次機能障害発症に関する前向き実数調査	200906	第46回 日本リハビリテーション医学会学術集会	静岡
岩永 勝 加藤 徳明 岡崎 哲也 佐伯 覚 蜂須賀 研二	外傷性脳損傷者に対する簡易自動車運転シミュレーターと事象関連電位	200906	第46回 日本リハビリテーション医学会学術集会	静岡
白石 純一郎 橋本 学 牧野 健一郎 高橋 真紀 岡崎 哲也 佐伯 覚 蜂須賀 研二	外傷性脳損傷後に意欲低下を示し内分泌異常が判明した1例	200906	第46回 日本リハビリテーション医学会学術集会	静岡
白石 純一郎 岡崎 哲也 佐伯 覚 蜂須賀 研二	遷延性意識障害を伴なう頭部外傷後にcritical illness neuropathyを呈した1例	200906	第46回 日本リハビリテーション医学会学術集会	静岡